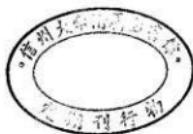


# 坂城町内遺跡発掘調査報告書2010

—平成22年度試掘・立会い調査報告書—



2011.3

坂城町教育委員会

## 例　　言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成22年度の町内遺跡の試掘調査及び立会い調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫の補助金及び町費にて対応した。
- 3 調査の体制
  - 担当者 助川 朋廣、時信 武史（坂城町教育委員会学芸員）
- 4 事務局の構成
  - 教　育　長　　長谷川　臣
  - 教育文化課長　　塙田　好一
  - 文化財係長　　助川　朋廣
  - 文化財係　　時信　武史
- 中沢あつみ、山岸紀美子（以上、町臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は助川・時信が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

## 凡　　例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、（　）内に調査面積を記載した。
- 2 採図の縮尺は、各図に縮尺を示した。
- 3 報告書抄録に記載された北緯・東経の座標値については、平成14年4月1日から施行された測量法改正に伴う、世界測地系に基づいた数値を記載した。

## 目　　次

### 例　　言

### 凡　　例

第Ⅰ章　坂城町の遺跡の立地と環境 .....	1
第1節 地理的環境.....	1
第2節 歴史的環境.....	1
第Ⅱ章　試掘調査の結果 .....	6
1 上五明条里水田址21.....	6
2 田町遺跡群9 .....	8
第Ⅲ章　立会い調査の結果 .....	10

### 報告書抄録

# 第Ⅰ章 坂城町の遺跡の立地と環境

## 第1節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接触点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空藏山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ッ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

## 第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的にふれておきたい。（括弧内の数字は3、4ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には込山D遺跡に槍先型尖頭器の出土があるが、詳細は不明である。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晚期では、学術的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の検出が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が注目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された遮光器土偶の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する堅穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区的仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土品から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置づけられた（若林 1999）。後期古墳では、町内でいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。埋葬施設に千曲川水系最大級の横穴式石室を持ち、

全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落址は町内においても多く検出され、特に環状に土器が配列された祭祀遺構が検出された南条地区的青木下遺跡（1-8）が注目される。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、疊鏡堂遺跡（20）、開畠遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区的土井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力をを持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区的満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡（44）がある。このほか、中世の遺跡では坂城地区的観音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区的開畠製鉄遺跡（53）がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置づけられている（若林 1999）。開畠製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置づけられるものであった。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1779）には中之条に代官所が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

#### 参考文献（五十音順・敬称略）

- 坂城町教育委員会 1978『開畠製鉄遺跡－第1次調査報告』 1979『開畠製鉄遺跡－第2次調査報告』 1993『宮上遺跡II』 1996『東裏遺跡』 1996『幾  
輪堂遺跡・上町遺跡・寺高遺跡・東町遺跡』 1996『寺浦遺跡II』 2000『開畠遺跡III』 2001『宮上遺跡I・II・III・IV』 2002『保  
地遺跡II』
- 開 孝一 1966「長野県坂城郡保地遺跡発掘調査報告」『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森崎 稔ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編（一）
- 柳沢 亮 1998「第5節 開畠遺跡」『北信新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』（財）長野県埋蔵文化財センター
- 若林 卓 1999「第9章 東平古墳群」「第11章 観音平経塚」「上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21」（財）長野県埋蔵文化財センター



試掘調査位置図 (1 : 25,000)



坂城町遺跡分布図

国名番号	道 路 名	種 別	時 代
1	南北連絡路	築造地	弥生～平安
-1	南北連絡路 東真連路	築造地	弥生～平安
-2	南北連絡路 桐ノ日置連路 (室町)	築造地	弥生～平安
-3	南北連絡路 中野連路 (新潟)	築造地	弥生～平安
-4	南北連絡路 南木連路	築造地	弥生～平安
-5	南北連絡路 四日市連路	築造地	弥生～平安
-6	南北連絡路 鹿児島連路	築造地	弥生～平安
-7	南北連絡路 岩手連路	築造地	弥生～平安
-8	南北連絡路 烏木下連路	水田地、耕作地	弥生～平安
2	金沢西連絡路	築造地	織文～平安
-1	金沢西連絡路 女戸連路	築造地	織文～平安
-2	金沢西連絡路 社宮連路 (金井西)	築造地	織文～平安
-3	金沢西連絡路 住木下連路	築造地	織文～平安
3	金井東連絡路	築造地	織文～平安
-1	金井東連絡路 佐助連路	築造地	織文～平安
-2	金井東連絡路 山金井連路	築造地	織文～平安
-3	金井東連絡路 大木久保連路 (南条小字の他地)	築造地	織文～平安
-4	金井東連絡路 游玉五連路	築造地	織文～平安
4	賀斗古道	古 道	古墳
5	社宮古道	古 道	中世
6	青柳尾古道	散歩地	織文～平安
7	北坂古道	古 道	古墳 (後期)
8	中之庄連絡路	築造地	織文～平安
-1	中之庄連絡路 今寺連路	築造地	織文～平安
-2	中之庄連絡路 上河内連路	築造地	弥生～平安
-3	中之庄連絡路 実利連路	築造地	織文～平安
-4	中之庄連絡路 北浦連路	築造地	織文～平安
-5	中之庄連絡路 宮上連路	築造地	織文～平安
-6	中之庄連絡路 北川内連路	築造地	織文～平安
9	南条庵古道 (坂穴古道)	古 道	古墳 (後期)
10	付谷古道	古 道	古墳 (後期)
-1	付谷古道 水原尾支那 西向古道	古 道	古墳 (後期)
-2	付谷古道 水原尾支那 河原古道	古 道	古墳 (後期)
11	入保尾古道	散歩地	平安
12	岩谷古道 梅屋支那	古 道	古墳 (後期)
13	若原連絡路	填 塵	中世～近世
14	御堂山古道群 山口古群	古 道	古墳 (後期)
15	山越連路	散歩地	織文
16	御堂山古道群 山越古道	古 道	古墳 (後期)
17	御堂山古道群 前山古道	古 道	古墳 (後期)
-1	御堂山古道群 前山号塚	古 道	古墳 (後期)
-2	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-3	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-4	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-5	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-6	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-7	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-8	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-9	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-10	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-11	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-12	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-13	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
-14	御堂山古道群 前山古塚	古 道	古墳 (後期)
15	御堂山古道群 東平子古道 二郷古道	古 道	古墳 (後期)
16	御堂山古道群 山田古道	古 道	古墳 (後期)
20	豊島連絡路 (山崎北連絡)	築造地	織文～平安
21	豊帆連路	築 地	弥生～平安
22	人岸古道	古 道	古墳
23	四ツ屋連絡路	築造地	織文～平安
24	久成連路	築造地	古墳～平安
25	入田連路	散歩地	奈良～平安
26	唐内古道 (柳沢沢古道)	古 道	古墳 (後期)
27	金比羅連路	散歩地	織文～平安
28	寛平連路	堀 塵	中世
29	園の原古道	古 道	平安
30	山越連絡路	築造地	織文～平安
-1	込山連絡路 込山A連路 (水上)	築造地	織文～平安
-2	込山連絡路 込山B連路 (紅葉井)	築造地	織文～平安
-3	込山連絡路 込山C連路 (込山)	築造地	織文～平安
-4	込山連絡路 込山D連路 (深町)	築造地	織文～平安
-5	込山連絡路 込山 E連路 (立町)	築造地	織文～平安
31	日名河連路	築造地	弥生～平安
-1	日名河連路 日名河連路	築造地	弥生～平安
-2	日名河連路 丸山連路	築造地	弥生～平安
32	土井八家路	古 道	桑良～平安
33	平林連路	散歩地	織文

国名番号	道 路 名	種 別	時 代
34	岸外露路	古 道	平安
35	平次連路	散歩地	絞文
36	和平連絡路	和平道	麻生辻、船布堆 麻生辻、船布堆 麻生辻、船布堆 麻生辻、船布堆
-1	和平連絡路 和平A連路	和平道	麻生辻、船布堆 麻生辻、船布堆
-2	和平連絡路 和平B連路	和平道	麻生辻、船布堆
-3	和平連絡路 和平C連路	和平道	麻生辻
37	金比羅山古道	古 道	古墳 (後期)
38	村上先達路	城壁跡	中世
39	馬の古連路	散生地	絞文
40	北吉野連路	絆 墓	中世
41	北日高六石古道群	古 道	古墳 (後期)
-1	北日高六石A号塚	古 道	古墳 (後期)
-2	北日高六石B号塚	古 道	古墳 (後期)
42	梅ノ木連路	散歩地	絞文
43	栗田古道	城壁跡	中世
44	鬼尾連路	城壁跡	中世
45	出波古道	古 道	古墳 (後期)
-1	出波古道 岩原出波主群1号塚	古 道	古墳 (後期)
-2	出波古道 岩原出波主群2号塚	古 道	古墳 (後期)
-3	出波古道 岩原出波主群3号塚	古 道	古墳 (後期)
-4	出波古道 岩原出波主群4号塚	古 道	古墳 (後期)
-5	出波古道 岩原出波主群5号塚	古 道	古墳 (後期)
-6	出波古道 岩原出波主群6号塚	古 道	古墳 (後期)
-7	出波古道 岩原出波主群7号塚	古 道	古墳 (後期)
46	鳥道跡	集落址	物語～平安
47	樋尻古道群	古 道	古墳 (後期)
-1	樋尻古道群 小野支群1号塚 (柳原社古墳)	古 道	古墳 (後期)
-2	樋尻古道群 小野支群2号塚	古 道	古墳 (後期)
-3	樋尻古道群 小野支群3号塚 (ヤックラ古墳)	古 道	古墳 (後期)
-4	樋尻古道群 小野支群4号塚	古 道	古墳 (後期)
48	小野町古道	築造地	物語～平安
49	福沢古道群 綾糸支群	古 道	古墳 (後期)
50	福糸古道群 畠主支群	古 道	古墳 (後期)
51	私路古道	城壁跡	中世
52	三木古道	城壁跡	中世
53	關前古道連路	製鉄部	中世
54	山陰寺古道	寺社跡	平安
55	鏡谷古道群	絆 墓	中世
56	原田古道群 緑谷古道	御宿駅	中世
57	塙之内連路	集落址	萬葉～平安
58	南日高連路	集落址	物語～平安
59	鬼尾連路 小原山	城壁跡	中世
60	姫姫連路	城壁跡	中世
61	板木代官路	通商駅	近世
62	田河御宿駅	散居地	古墳～平安
63	御宿御宿駅	港 墓	中世
64	寛平連路	寛 寺	平安
65	中之庄石切跡跡	石切跡	近世
66	坂道古道	古 道	古墳 (後期)
67	中之庄代官路	宿駅駅	近世
68	成合連路	家 庭	平安
69	候曾連路	候曾駅	中世
70	南の川連路 (吉井寺古道)	散歩地半散歩地	奈良半寺古散歩 奈良半寺古散歩
71	口留御宿駅	宿駅駅	近世
72	松合連路	城壁跡	中世
73	高ノ木城跡	城壁跡	中世
74	足守山城跡	城壁跡	中世
75	地頭の古敷松原御跡	城壁跡	近世
76	荒船古道	散歩地	平安
77	出港古道	城壁跡	中世
78	上白須恵重水田塚	水田址	近世～近傍
79	出港古道	集落址	萬葉～平安
80	上白須恵	城壁跡	中世
81	坂元古道	城壁跡	中世
82	小野六家跡	家 庭	桑良～平安
83	孫穴古道群	古 道	古墳 (後期)
-1	孫穴古道群 五枝支群1号塚	古 道	古墳 (後期)
-2	孫穴古道群 五枝支群2号塚	古 道	古墳 (後期)
-3	孫穴古道群 五枝支群3号塚	古 道	古墳 (後期)
84	起祖連路	集落址	萬葉～平安
85	網走連路	散歩地	萬葉～平安
86	琴平連路	祭壇駅	平安
87	島々御宿群伴御宿	長篇駅	近代
88	岸ノ原御宿群 佐佐木御宿	御宿駅	近代
89	上青銅御宿群御宿	御宿駅	近代
90	横浜北国御道跡	街道路	近世

## 第Ⅱ章 試掘調査の結果

### 1 上五明 条里水田址21

所在 地 坂城町大字上五明309-4ほか

事業主体 長野県千曲建設事務所

事業名 道路改良事業

調査期間 平成22年10月19・20日

面 積 550m<sup>2</sup> (59m<sup>2</sup>)

担当者 時信 武史

#### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は、坂城町の千曲川左岸の網掛、上五明、上平に所在する千曲川沖積地に所在する遺跡で、「坂城町遺跡分布図」によると平安時代～中世にかけての条里水田址に位置づけられている。しかし、近年の試掘調査及び発掘調査によって、上五明地区、上平地区には古代の集落址も検出され、生産遺跡といった性格以外に集落址も存在している事が判明している。

今回、本遺跡内において道路改良事業が計画され、遺跡の有無を確認するため試掘調査を実施することとなった。

#### 調査の成果

今回の調査地点は、これまで行ってきた上五明条里水田址の試掘調査では千曲川に近い場所であった。

トレンチを設定して掘削を行ったが、耕作土層直下に若干のシルト層を挟みながらも、地表下約1.2mで千曲川の氾濫による堆積と思しき砂疊層を確認した。土層断面の観察や、遺物が出土しなかったことから、当該地には遺構は存在していないものと判断した。



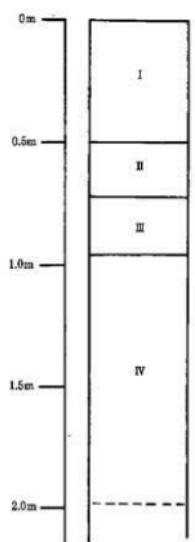
試掘調査位置図 (1:2500)



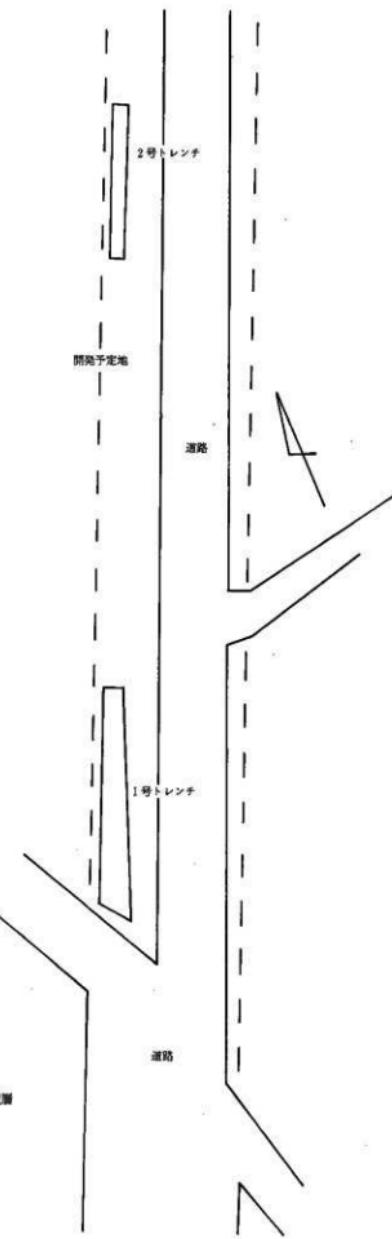
1号トレンチ掘削状況 (南西より)



1号トレンチ検出状況 (北東より)



- I 層 にない黄褐色土 (10YR4/3) 粘質土、水田耕作土層
- II 層 明黄褐色土 (10YR6/6) 粘質土、水田耕作土層
- III 層 褐色土 (10YR4/4) 粘質土、旧水田耕作土層
- IV 層 灰黃褐色土 (10YR4/2) 砂利層、河川による自然堆積層



## 2 田町遺跡群9

所在 地 坂城町大字坂城6565-2ほか

事業主体 長野県千曲建設事務所

事業名 道路改良

調査期間 平成22年1月13・14日

面 積 2,300m<sup>2</sup> (17m<sup>2</sup>)

担当者 時信 武史

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

田町遺跡群は坂城町坂城に所在し、日名沢川によって形成された扇状地上に分布している。「坂城町遺跡分布図」によると古墳～平安時代の散布地とされ、過去に数回試掘調査が実施されている。平成6・7・10・12年度は宅地造成事業、平成18年度は集合住宅建設によって試掘調査を行った。平成6・18年度地点から遺物や遺構が確認されたが、依然として遺跡の詳細がつかめていない。

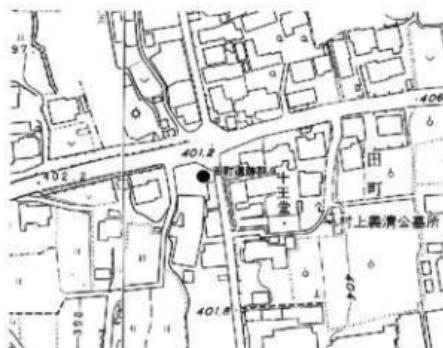
今回、長野県千曲建設事務所による県道拡幅事業が計画され、遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施することとなった。

### 調査の成果

今回の計画地は、西面する緩斜面の先端付近に位置している。南北方向に試掘トレンチを設定し、遺構の有無を確認した。

トレンチを地表面から約1m掘り下げたが、遺構・遺物の検出にはいたらなかった。

なお、旧北国街道（現町道）に沿う形で1条の木樋が検出されたが、堆積土中からの出土物から近～現代以降の所産であると判断された。



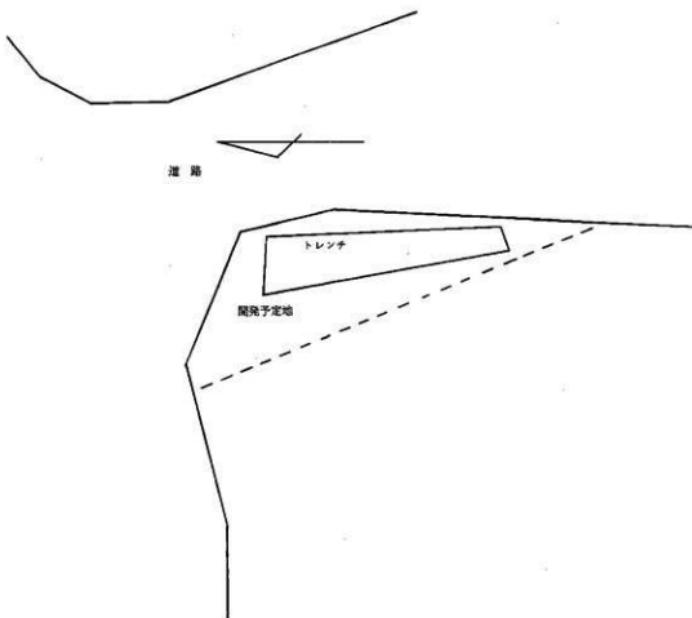
試掘調査位置図 (1 : 2500)



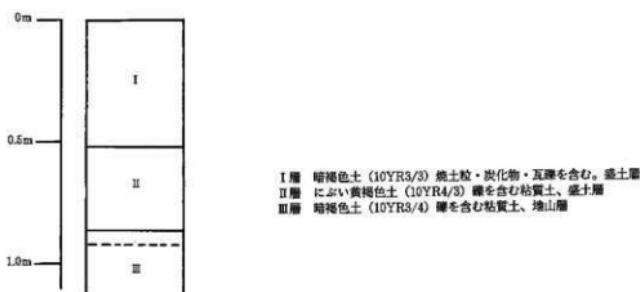
トレンチ掘削状況 (南より)



トレンチ検出状況 (南より)



試掘トレンチ設定図 (1 : 200)



基本層序模式図

### 第Ⅲ章 立会い調査の結果

No	遺跡名	開発主体者	所在地	開発事業名	開発面積 (m <sup>2</sup> )	調査期間
1	田町遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	配水管埋設	37	H22年9月7日～H22年9月1日
2	日名沢遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	消火栓移設	2	H22年6月16日～H22年7月2日
3	戌久保遺跡	個人	坂城	個人住宅建設	170	H22年9月5日～H22年11月30日
4	島遺跡	ソフトバンクモバイル株式会社	上平	携帯電話鉄塔建設	1	H22年9月20日～H22年10月31日
5	御堂川古墳群	ソフトバンクモバイル株式会社	中之条	携帯電話鉄塔建設	1	H22年9月20日～H22年10月31日
6	荒宿遺跡	ソフトバンクモバイル株式会社	網掛	携帯電話鉄塔建設	1	H22年9月20日～H22年10月31日
7	上五明条里水田址	上田水道管理事務所	網掛	配水管埋設	380	H22年10月13日～H23年3月25日
8	網掛原遺跡	上田水道管理事務所	網掛	配水管埋設	380	H22年10月13日～H23年3月25日
9	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	配水管埋設	25	H22年10月25日～H22年12月3日
10	中之条遺跡群	上田水道管理事務所	中之条	配水管埋設	86	H22年10月25日～H23年3月4日
11	込山遺跡群	上田水道管理事務所	坂城	配水管埋設	21	H22年10月21日～H22年10月29日
12	上五明条里水田址	坂城町建設課	網掛	下水管埋設	1200	H22年11月1日～H23年3月31日
13	上町遺跡	坂城町建設課	中之条	下水管埋設	1600	H22年11月1日～H23年3月31日
14	金井西遺跡群	坂城町建設課	南条	下水管埋設	1400	H22年11月1日～H23年3月31日
15	宮上遺跡	鶴桜井製作所	中之条	工場建設	24	H22年11月1日～H22年12月25日
16	日名沢遺跡群	個人	坂城	個人住宅建設	216	H22年12月6日～H23年3月15日
17	込山C遺跡	ソフトバンクモバイル株式会社	坂城	携帯電話鉄塔建設	1	H22年11月20日～H22年12月25日
18	谷川古墳群	ソフトバンクモバイル株式会社	南条	携帯電話鉄塔建設	1	H22年11月20日～H22年12月25日
19	込山B遺跡	上田水道管理事務所	坂城	消火栓設置	4	H22年12月6日～H23年2月10日
20	上五明条里水田址	上田水道管理事務所	上五明	配水管埋設	530	H23年3月28日～H23年8月26日



立会い調査位置図 (1 : 25,000)

## 報告書抄録

ふりがな	さかきちょうないいせきはっくちょうさほうこくしょ
書名	坂城町内遺跡発掘調査報告書 2010
副書名	平成22年度試掘・立会い調査報告書
卷次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第38集
編著者名	助川 朋廣・時信 武史
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2011年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上五明 条里水田址21	坂城町大字上五明	20521		36°27'08"	138°10'15"	2010年10月19日 2010年10月20日	89	道路改良
田町遺跡群 9	坂城町大字坂城	20521		36°27'38"	138°11'05"	2011年1月13日 2011年1月14日	17	道路改良

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上五明条里水田址21	水田址	平安～近世	なし	なし	
田町遺跡群 9	散布地	古墳～平安	なし	なし	

## 坂城町埋蔵文化財調査報告書

『開戸製鉄遺跡－第1次調査報告書』	1977
『開戸製鉄遺跡－第2次調査報告書』	1978
『東裏遺跡』	1983
『中之条遺跡群 宮上遺跡II』(概報)	1993
『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集 『南条遺跡群 東裏遺跡II・青木下遺跡』	1994
第2集 『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集 『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集 『南条遺跡群 塚田遺跡II』	1995
第5集 『豊穣堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集 『中之条遺跡群 寺浦遺跡II』	1996
第7集 『中之条遺跡群 上町遺跡II』	1996
第8集 『上五明条里水田址』	1996
第9集 『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集 『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集 『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集 『戌久保・町横尾遺跡』	1998
第13集 『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集 『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集 『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集 『開戸遺跡III』	2000
第17集 『中之条遺跡群 北川原遺跡II』	2001
第18集 『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集 『中之条遺跡群 宮上遺跡I・II・III・IV』	2001
第20集 『金井東遺跡群 保地遺跡II』	2002
第21集 『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集 『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集 『豊穣堂遺跡III』	2004
第24集 『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2004』	2005
第26集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2005』	2006
第27集 『込山遺跡群 込山C遺跡II・III』	2006
第28集 『込山遺跡群 込山D遺跡I』	2007
第29集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2006』	2007
第30集 『南条遺跡群 青木下遺跡II・III』	2007
第31集 『開戸遺跡IV』	2008
第32集 『町横尾遺跡II』	2008
第33集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2007』	2008
第34集 『中之条遺跡群 上町遺跡IV・V』	2009
第35集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2008』	2009
第36集 『中之条遺跡群 寺浦遺跡IV』	2010
第37集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2009』	2010
第38集 『坂城町内遺跡発掘調査報告書2010』(本書)	2011

坂城町埋蔵文化財調査報告書第38集

坂城町内遺跡発掘調査報告書2010

発行日 2011年3月31日

編集者 坂城町教育委員会

〒389-0601 長野県埴科郡坂城町大字坂城6362-1

TEL 0268 (82) 1109

印刷者 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野県長野市西和田1丁目30番3号

TEL 026 (243) 2105